

## ☆四日市市立中部中学校区の取組

### ◆事業概要



#### 1 中学校区の現状と課題

中部中学校は、外国につながるのある生徒の受け入れ拠点校となっており、文化や習慣の違いから日本の学校に馴染むことが難しい生徒もいます。校区外から通う外国につながるのある生徒も多く、学習に対する意欲を持ちにくい生徒がいます。また、中学校区では、人間関係の固定化が見られ、それらを背景とした決めつけや偏見から抜け出せない子どもたちの姿もあります。さらに、中学校区全体として、不登校児童生徒の割合が多いことも課題としてあげられます。このような状況にある子どもたちの支援を効果的に進め、自尊感情や学習意欲の向上を図ることが中学校区の大きな課題です。

#### 2 課題解決のための主な取組

##### (1) 「BC(ビューティフル・シティ)への道」

8月、例年2日間にわたって、大四日市祭りが盛大に行われており、中部中学校区はこの祭りの中心地です。校区の子どもたちは、町の育成会・保存会ごとに太鼓の指導を受け、祭りのリズムを奏でる役割を担います。そのことが、活気ある地域活動につながっています。

大四日市祭りの翌日、中学生は、「BCへの道」と呼ぶ大規模なゴミ拾い活動を行いました。生徒は部活動ごとに分かれて行動し、商店街の方々とコミュニケーションを図りながら、自分たちの住む校区を綺麗にすることができました。猛暑の中、近くの諏訪公園だけでなく、周辺の路地裏の清掃まで行いました。このような活動を通して、生徒は「自分も地域の一員である」「地域の担い手である」という思いが醸成されていくと考えられます。



「BCへの道」の様子

##### (2) 「地域子ども教室」

中学校では、今までにも「ワールド教室」として、来日したばかりで日本語の初期支援を必要とする外国につながるのある生徒が、日本語学習を受けながら既習事項を補う教室が行われていました。今年度ネットワークの展開により、参加者の対象を全校に広げ、夏季休業中から「地域子ども教室」を開設しました。学習支援ボランティアとしては、周辺地域の教職経験のある住民や大学生の協力を得ました。

「地域子ども教室」の前半は、夏季休業中、学校図書館において、学校から出された課題や自主学習できるものを持ち寄り進めました。学習支援ボランティアが見守る中、どの子どもも集中して取り組み、落ち着いた雰囲気の中で学習が進められました。



「地域子ども教室」の様子

「地域子ども教室」の後半は、11月から2月に、放課後の学習会として開設し、学習支援ボランティアが引き続き指導にあたりました。「地域子ども教室」の前半に比べ、後半は参加者が次第に増え、学習支援ボランティアとの距離も日ごとに縮まり、学習内容以外に自分のことを話す子どもの姿も見られました。とりわけ、不登校傾向にある生徒にとっては、参加しやすい機会となりました。

小学校では、学習支援ボランティアの支援により、夏季休業中に「補充学習会」と「外国につながるのある子どもたちの学習会」を実施したり、「土曜授業サポート」として個別に指導が必要な子ども等への支援を実施したりしました。

### ◆実践を振り返って

今年度、この事業によりネットワークの輪を地域へ広げられたことで、子どもたちと地域との交流の機会をさらに大切にすることができました。このような機会を通して、子どもたちは地域住民からの言葉がけや見守られているという安心感のもとで、自尊感情が高まっていきました。

ネットワークの広がりの中で「地域子ども教室」及び「夏季補充学習会」を新たに開設したことが成果としてあげられます。特に「地域子ども教室」は、子どもたちと学習支援ボランティア・学生ボランティアとの間に、学習内容以外に自分自身のことを話す等の信頼関係が生まれ、教育的に不利な環境のもとにある子どもたちの居場所づくりとして、大きな役割を担いました。

今後も子どもたちの進路を保障し、将来の展望をもつための取組を継続して推進していきます。